

「復興農学会」幹事会（第2回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年5月8日（月）18時00分～18時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席予定者 石井 秀樹（福島大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、溝口 勝（東京大学）、横山 正（福島大学）
（敬称略）

議事に先立ち会長指名幹事 登尾 浩助 教授よりあいさつがあった。

議事録

1. 第1回幹事会の議事録の確認【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて、4月10日に開催された第1回幹事会の議事の概要が報告され確認された。

2. 2023～2024年度役員の確認【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて、2023～2024年度役員と役割分担について報告され確認された。

3. 幹事会の進め方ならびに「拡大幹事会」の設置について（新田）

新田より、事務局会議、幹事会の位置づけや運用状況等について報告があった。まず、事務局会議は、「復興知」事業を実施する大学等のメンバーが中心になって設置され、本学会発足前から毎月会議を開催して（56回）運用されてきたこと、それにつづいて幹事会は、事務局会議にかわるものとして先月（4月）に第1回が開催されたこと、また他学会では評議員会にあたる組織であり、将来は評議員会への以降が想定されていること等が報告され確認された。

つづいて、新田より、第1回幹事会（4月）で、被災地（福島県浜通り地域）の農業等の復興状況や、地域や国内・外の関連情報や意見を交換する場として、従来の事務局会議構成メンバーを含めた「拡大幹事会」を毎月1回程度開催してはどうかとの意見があったことが報告された。

拡大幹事会等を含む今後の進め方について審議した。その結果、以下の点が了承された。

- ・拡大幹事会は設置せず、広く学会員等の声を聴き意見を交換する「月例会」（仮称）を毎月1回程度開催し、必要によりそれにつづいて幹事会を開催する。
- ・「月例会」は幹事会として予定していた「毎月第1月曜日18時台」の前に開催する。第1回を6月5日（月）、第2回を7月3日（月）とする。
- ・「月例会」の企画・運営は企画担当幹事（石井 准教授（主任）、内田 教授、黒瀧 教授）が担当する。テーマや話題提供者の選考等をし、会を実施する。

4. 会員数の拡大について（新田）

新田より、本学会の会員数について、2023年3月18日現在、会員数は178名（研究者163名、その他15名）であるが、これには過去のシンポジウムに参加しただけの者等が含まれており不確実な数であること、一方、2023年3月14日現在、2022年度会費の納入者は71名（研究者67名、その他4名）であり、確実な会員数と考えられることが報告された。

また、新田より、日本学術会議の協力学術研究団体に申請する要件の1つに、「構成員（個人会員）が100名以上で、その半数以上が研究者であること」があることが報告された。したがって、本学会が日本学術会議に再度申請するためには、現状よりも30名程度以上の会員数の増加が必要であることが報告された。

会員数の拡大について審議された。その結果、事務局（佐伯 研究員）が会員名簿を大学ごとに整理し（会費納入・未納別、など）、各大学に送付して幹事会メンバー等が確認し、未納者等を中心に勧誘活動を実施することとなった。

5. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況（横山）

横山 特任教授より、7月発行予定の第3号第2号の編集状況について、現在、原著論文1報が査読中であること、さらに投稿が期待されていること等が報告された。

6. その他

(1) 本学会の英語名について（溝口）

溝口 会長より、本学会の英語名（Society of Reconstruction Agriculture）を見直したいとの提案があった。次回以降の幹事会で検討することとなった。

以上

今後の予定

- ・ 幹事会（第3回） 2023年6月5日（月）18時00分から
（幹事会は、毎月第1月曜日18時00分から開催（2023年9月まで））